

平成30年春号



ごあいさつ

この度、平成30年4月1日付けで医療連携福祉センター長に就任した齋藤です。2年ぶりに医療連携や医療相談などに関する仕事に携わることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報誌「医療連携福祉センターだより」は、おかげさまで、今号で節目となる10号をお届けすることになりました。今回は三つの診療科の外来診療についてご紹介します。日頃の診療の手助けとなれば幸いです。

現在、札幌医科大学は「札幌医科大学施設整備構想」に基づいて各施設の改修整備を進めております。附属病院においては、今年西病棟の増築工事が終了し、それに伴い病棟の一部などがリニューアルされ、医療連携福祉センターも年内に新しい執務室へ移動することになっております。

ご承知のとおり、国は、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するために「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。患者本位の良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制整備を進めており各医療機関の役割分担の明確化や連携体制の強化が求められています。このような状況のなかで、札幌医科大学附属病院が特定機能病院として地域に貢献するために「医療連携福祉センター」が果たす役割は決して小さくないと思います。

これを機会に心機一転サービスの充実と向上に努めてまいりますので、これからもご協力いただきますようお願い申し上げます。



医療連携福祉センター長
齋藤 豪

外来紹介 1

免疫・リウマチ内科外来のご紹介

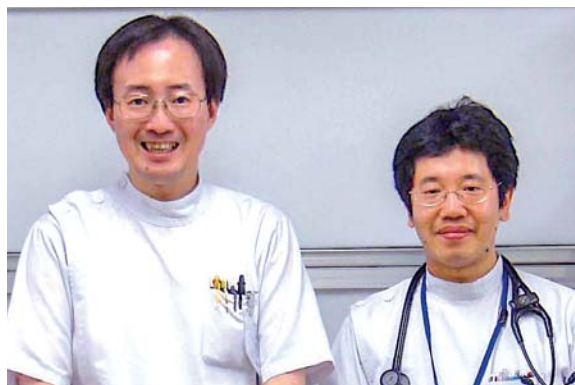
免疫・リウマチ内科 高橋 裕樹

本学では2016年4月に免疫・リウマチ内科学教室が新設されておりましたが、2018年4月から外来診療も、従来の消化器・免疫・リウマチ内科（旧・第一内科）から分離し、「免疫・リウマチ内科」としてリウマチ・膠原病診療を担当させて頂くことになりました。とは言っても、診療体制は従前と同様であり、週5コマの再来、隔週1コマの新患外来となります。

リウマチ・膠原病は1990年代から、病気自体の仕組みの解明と、新規治療薬の開発が進み、特に関節リウマチでは治療戦略・治療法が格段に進歩しました。適切な早期診断と、目標を設定した関節炎のコントロールを、メトトレキセートを中心に、新規治療薬を駆使して行うこととなります。一方、治療強化に伴う感染症などの副作用への迅速な対応も必要とされるなど、従来以上に専門的な知識が必要となっていることから、手領域をメインに、複数の関節痛やこわばりが4週間以上持続するなど、関節リウマチが疑われる患者さんをご紹介ください。抗CCP抗体や画像診断がより早期診断を可能にしている一方、リウマチ様の愁訴をきっかけに、それ以外の膠原病が見つかることも珍しくありません。診療の入り口での鑑別診断を正確に行う手助けをさせて頂けると幸いです。

また、耳なじみのない病気かもしれませんが、当科は「IgG4関連疾患」という21世紀にはいって注目されるようになった全身性疾患に早くから関わり、全国でも有数の診療経験を有する診療科と自負しています。従来、ミクリツ病や自己免疫性膵炎と診断されていたのは、IgG4関連疾患の涙腺・唾液腺病変、膵病変ということになり、そのほかにも腎、胆管、後腹膜・大動脈周囲、肺、リンパ節など、ほぼ全身に腫瘤形成性の病変を生じる疾患です。既存の膠原病と違って関節痛や発熱、炎症反応上昇は稀ですが、疑われる場合にはIgGのサブクラスである「血清IgG4」（保険適用あり）を測定し、135mg/dlを超えるような患者さんは是非、ご紹介ください。関連する診療科（耳鼻咽喉科、眼科、消化器内科、泌尿器科など）と連絡を密にして診療致します。

現行のスタッフで従来のリウマチ・膠原病診療を継続しながらの対応となりますので、多少お待たせすることもあるかもしれませんが、特に医療連携福祉センターを介して頂けますと、可及的早急に診療させて頂きたいと思っております。今後ともご紹介のほど、どうぞよろしくお願いたします。



外来担当医 左：高橋裕樹、右：山本元久

外来紹介 2

肺高血圧症専門外来が新設されました！

循環器・腎臓・代謝内分泌内科 小山 雅之

本センターだよりをご覧の皆さま、はじめまして。札幌医科大学 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座および公衆衛生学助教の小山と申します。当講座では道内3大学のひとつとして、生活習慣病の予防・介入から循環器疾患（心筋梗塞・狭心症などの虚血性心疾患、心筋症）、腎臓病、糖尿病・甲状腺疾患などの内分泌疾

患の治療まで広く道民の皆さまの健康・長寿の延伸に貢献すべく日常診療にあたらせていただいております。

皆さまご存知の一般的な高血圧症は、日本人の1/3が有するまさに国民病と言えますが、今回話題にするのは「肺」の高血圧症です。肺高血圧症はさまざまな原因で生じますが、国内で数千人しかいない非常にまれな疾患であり、厚生労働省が指定する指定難病に含まれます。当講座では北海道の肺高血圧診療の草分け的な存在として、准教授の橋本を中心に10数年前から高度で専門的な治療を開始しておりました。

札幌市内はもとより、道内各所での地道な普及活動が功を奏し、おかげさまで近隣から遠隔地まで色々なご施設から患者さまを紹介いただく機会が増えてきております。肺高血圧診療は近年ますます専門的な知識が必要になっており、さらに、患者さまを取り巻く環境も特殊であることから、医者だけではなく、看護、リハビリテーション、栄養、皮膚や心のケアなどチーム一丸となった診療体制を敷いて、難病に立ち向かう患者さまのお手伝いをしたいと考えております。

2018年4月の良き日に肺高血圧症専門外来を旗上げさせていただけることになりました。私たちの培ってきた経験をご紹介いただいた患者さまへ還元することはもとより、

ゆくゆくは道内各地の皆さまのご施設へパッケージとして提供できる日を夢見ております。また、大学病院の責務として、まだ見ぬ難治症例の診断・治療法の開発にも帆をかがげてまいります。



肺高血圧症専門外来スタッフです

第二・第四木曜日の午後を診療日としておりますので、まずはお気軽にご相談いただければと思います。札幌医科大学 肺高血圧症専門外来をよろしくお願いたします。

肺高血圧症専門外来
担当医 小山 雅之、橋本 暁佳

外来紹介 3



麻酔科学講座 ペインクリニック外来・漢方外来のご紹介

麻酔科 澤田 敦史

麻酔科学講座は急性痛、難治性疼痛の患者さんを対象としたペインクリニック外来、西洋医学のみでは治療の難しい患者さんを対象とした漢方外来を行っています。

ペインクリニック外来では、帯状疱疹などの急性疼痛はもちろん、帯状疱疹後神経痛、神経障害性疼痛、

神経根症などの慢性疼痛の患者さんを対象として、薬物療法や硬膜外、末梢神経ブロックによる難治性疼痛の治療を行っています。また、外来処置室での神経ブロックが困難な患者さんにはX線装置を使用した透視下神経ブロックも行っています。当講座では難治性疼痛の先端医療である脊髄刺激療法も積極的に行っています。

漢方外来では薬物療法、神経ブロックといった西洋医学のみでは治療が難しい患者さんに対して、東洋医学である漢方を取り入れることにより、痛みの治療、さらには痛みに伴う不定愁訴の治療を行っています。ペインクリニック外来の診療日は月・水・金曜日です。漢方外来の診療日は木曜日です。透視下神経ブロックは火曜日に行っています。当講座では、難治性疼痛の患者さんのご紹介をお待ちしています。

INFORMATION

○新棟の完成に伴う執務室の移動について

札幌医科大学は、「札幌医科大学施設整備構想」に基づく改修計画により、各施設の整備を進めてきましたが、附属病院については、西病棟の増築工事が平成30年3月に終了し、今後は既存棟の改修工事が予定されています。「医療連携福祉センター」は、今まで2階の手狭な場所にあり、何かとご不便をおかけしていましたが、今年の7月頃に増築した西病棟の1階フロアー（正面玄関に向かって右手側です）に移動する予定です。

○新患の受診予約について

1. 連絡先

月曜日～金曜日（平日）

電話：011-688-9514 FAX：011-621-2233

2. 予約の申し込み

- ・専用の「新患外来予約申込書」を記入の上、**FAX**でお申し込みください。専用の書式は当院のホームページからダウンロードできます。（お電話いただければFAXで様式をお送りします）
- ・FAXの受付時間は9：00～12：00、13：00～16：00です。
- ・患者さんご本人からの申し込みは受け付けておりません（臨床遺伝外来、神経精神科を除く）
- ・患者さんが貴医療機関でお待ちの場合は15分以内を目途にFAXで予約票をお送りします。（医師指定の場合などは回答に時間がかかる場合がありますのでご了承ください）
- ・貴医療機関から患者さんへ予約票をお渡しく下さい。
- ・当日の新患外来受診の予約及び検査のみの予約はできませんのでご注意ください。
- ・申し込みをいただいても、疾病内容などにより当院では診療をお引き受けできない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

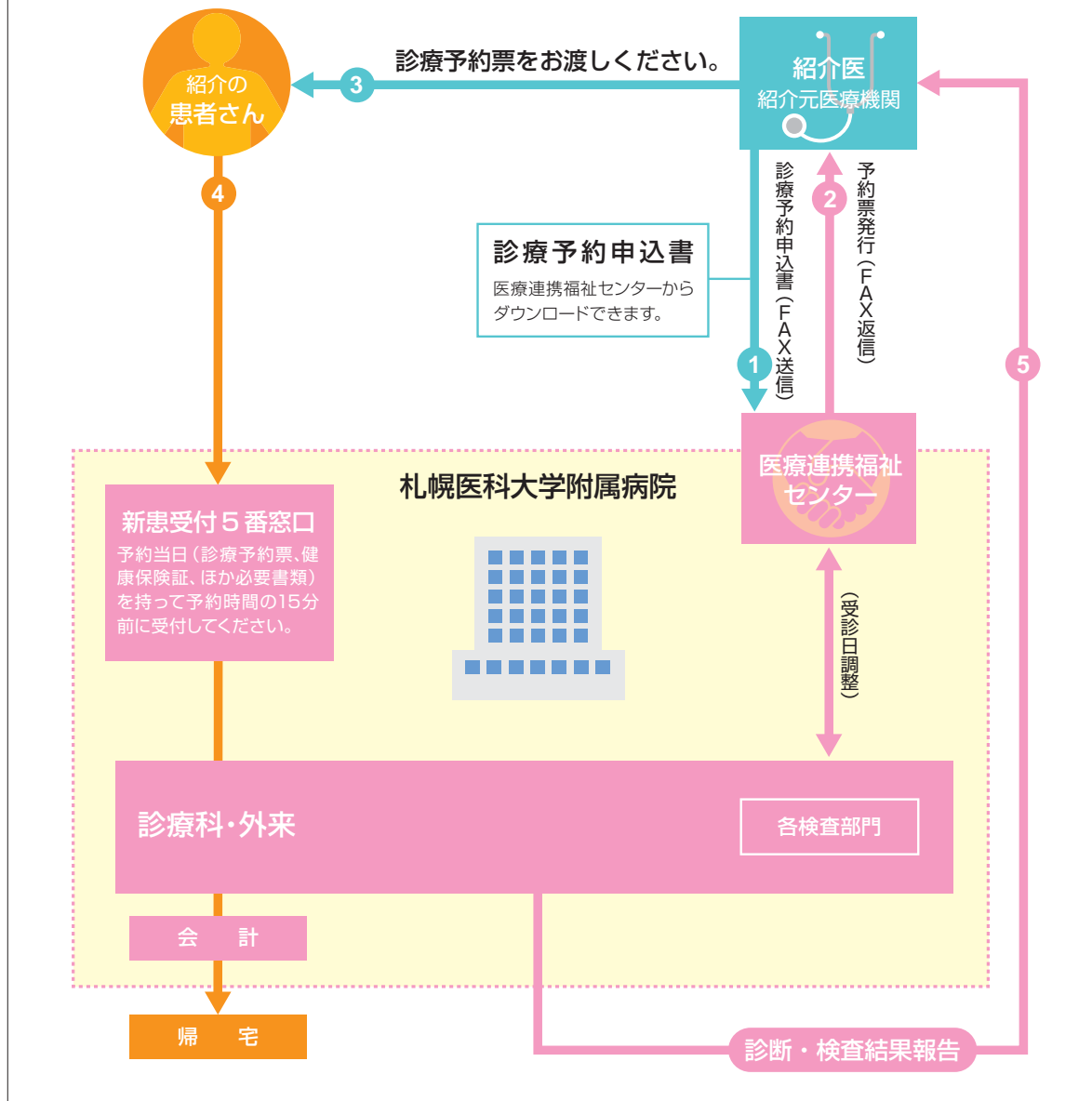
3. 受診受付

- ・患者さんは、予約票、保険証、診療情報提供書などをお持ちの上、予約時間の15分前までに新患受付5番窓口で受け付けし、外来でお待ちください。

新患外来受診予約のウェブサイト

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000002zmz.html>

新患外来予約受付と診療までの流れ



(注意事項)

1. 通常診療

当院は特定機能病院であるため、初診の患者さんで他の病院等からの紹介状をお持ちではない場合は、初診料とは別に保険適用外の**初診時一部負担金(5,400円)**をご負担いただいております。臨床遺伝外来、神経精神科以外は予約なしでの受診もできますが、待ち時間軽減のためにも医療機関からの予約申し込みをおすすめします。

2. 再来診療

同じ診療科で1年以内に受診歴がある場合は「新患予約」の扱いになりませんので、14:00～15:30の間に各診療科外来にお問い合わせください。(代表番号011-611-2111)

3. 神経精神科の予約

- ・新患受診：月曜日から金曜日（祝祭日を除く）の14:00から15:30までの間に、電話で予約してください。(電話番号011-611-2111 内線35330(神経精神科外来))
- ・もの忘れ外来：月曜日から金曜日（祝祭日を除く）の14:00から15:30までの間に、電話で予約してください。(電話番号011-611-2111 内線35330(神経精神科外来))
なお、かかりつけの病院またはクリニックからの紹介状が必要となります。
- ・GIDクリニック（性同一性障害専門外来）：初めての受診は予約が必要です。予約の方法は当院ホームページ（トップページのお知らせ欄）で確認してください。

○入院（転院）の依頼について

入院のご依頼は、医療連携福祉センターでは承っておりません。主治医から各該当診療科の病棟医長に直接電話等で相談していただきますようお願いいたします。

また、入院が決まった後の日程等の調整も各病棟で行っていますので、不明な点があれば各病棟の看護師にお問い合わせください。

なお、入院に関する診療情報提供書のFAX送信については、取り次ぎますので、医療連携福祉センターのFAXに送信していただいで結構です。

○セカンドオピニオン外来について

当院では、セカンドオピニオン（第二の意見）を求める患者さんやそのご家族に対して、既に診療を受けている医療機関からの紹介状と必要な資料に基づき、当院の医師から参考となる意見や判断を提供するセカンドオピニオン外来を開設しております。

◇ご用意いただくもの

- ・主治医からの紹介状（お受けできるか判断するために、申込時に必要となります）・画像・検査資料・相談同意書（ご家族だけで面談の場合）等

◇料 金

1回 60分以内 21,600円（消費税込）

◇申込方法

- ・当院申込書にご記入のうえ、FAXでお申込ください。（申込書は当院ホームページからもダウンロードできます。）
- ・医療機関からお申し込みの場合は、紹介状も一緒にFAXしてください。
- ・申込書を提出された方へご連絡後、日程を決定し、各診療科外来にてご相談をお受けします。

セカンドオピニオン外来のウェブサイト <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/guide/mumhv60000002omq.html>

担当 医療連携係 011-611-2111 内線51230

編 集 後 記

今号で10号目になります「医療連携福祉センターだより」は、毎年2回発行しています。春号は医療機関の皆様向けに、秋号は在宅ケア機関の皆様向けに編集し発行しています。

毎年、春の号は、ちょうど桜の季節の頃にお届けできるよう編集作業を進めていますが今年は間に合っているでしょうか？

桜の便りのように、患者さんに心から喜んでいただける仕事を目標にスタッフ一同頑張っていますが、そのためには連携力のアップが必要です。

今後とも皆様のお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

医療連携係 夏堀 雄介



札幌医科大学附属病院 医療連携福祉センター

医療連携係（内線51210、51230、31320） 退院支援係（内線31930、51260、51270、51250）
相談係（内線31840、31890、31900、31910、31920、31960）

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
TEL：011-611-2111（代表） FAX：011-621-2233